

- 湯梨浜町では、イネの重要病害であるイネ縞葉枯病が2018年から多発し、収量低下が問題となっていた。
- 発生の防止と収量の回復を急がれたため、役場、JAおよび県関係機関と連携して防除方法を確立し、防除の啓発・周知および定着を図った。
- その結果、生産者の意識が高まって防除が広範囲で実施され、現在では収量が回復している。

具体的な成果

- イネ縞葉枯病の総合的防除対策を確立した。



図 ヒメビウンカによる縞葉枯病発生の仕組みと防除対策

- イネ縞葉枯病に対する生産者の防除意識が高まり、防除対策の実施面積が拡大した。

実施面積	平成30年	令和元年	令和2年
新規育苗箱施用剤 ・自家育苗 ・JA苗	58ha 0ha	72ha 89ha	80ha 203ha
新本田剤	試験実施	175ha	164ha
秋耕耘	145ha	156ha	205ha

- 湯梨浜町の平均収量が令和2年には完全回復した。

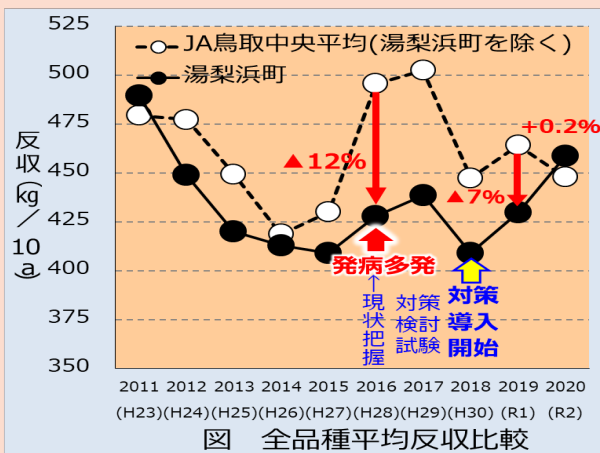


図 全品種平均反収比較

普及員の活動内容

- 協力体制の構築

平成28年に普及所の主導で「湯梨浜町縞葉枯病対策会議」を設置し、関係機関と連携しながら課題解決を図った。



図 湯梨浜町縞葉枯病対策会議の様子(令和元年)

- 縞葉枯病の発生実態の把握

対策会議のメンバーで湯梨浜町全域の発生状況を調査した。さらにその結果を地図上に表示して、関係者間の情報共有を図った。

- 防除方法の効果検証と確立

新規農薬による化学的防除および秋耕耘等の耕種的防除の効果検証を試験場と分担して行い、有効な対策を選定した。

- 防除の啓発・周知と定着

・湯梨浜町に対して防除対策事業を提案し、さらに事業の創設支援を行った。
・研修会、JA指導会及び座談会等を活用して生産者の理解を深め、防除の実施を促した。

今後の普及活動に向けて

○被害が完全に終息するまで、総合的な防除の継続が必要であることから、今後も必要に応じて技術的支援を行っていく。

○本手法は管外でも応用できると考えられ、県内全域に向けて情報提供を図っていく。